



017008-000-6

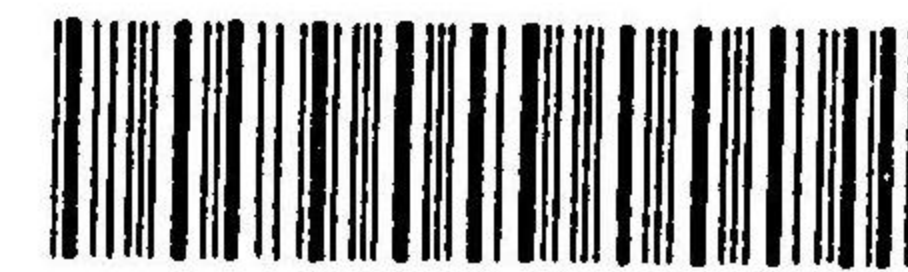
特14-351

四天王寺獨案内 一名，天王寺土産

堀 魯一 / 著

M28.3

ABE-0279



四天王寺獨案内叙一名天王寺土產

客有り余を浪華天王寺村の寓居に訪ふ時恰も着衣して  
四天王寺被岸會の中日あり參佛の人觀花の人交互踏往  
還織るが如し余亦客を誘ひ西門石華表より入り廻廊を經  
て北に歸る客云く嗟乎盛なる哉佛敎の我國に流行す茲に千  
載百年なり況や此地古昔梵園の創設にして方今又公園と  
稱するを境内の廣き堂宇の多き歴拜順次等容易に記す  
る能はず石華表の匾額に於て釋迦如來轉法輪所當極  
樂土東門中心に十六字を記するの他は所謂實の  
山に入りて空ふして歸ると一般なり余は是所謂實の  
勿れ余常に聞見する所有り四天王寺獨案内なるもの憂ふ



編を草す謂ふ幸にこれを納めよ客大に喜て云く九州地方固より斯の如き梵園又公園無し圃らさりき今日極樂の土産を得んとい然れども此書や待に一私人の土産と爲すのみならず宜しく参佛公衆の土産と爲すべし余以て然りとし一つに天王寺土産と名づけ當日の談話を巻首に記す

明治二十八年二月

編者識

四天王寺獨案内 一名天王寺土産

凡例

- 一本書四天王寺獨案内(一名天王寺土産)と名づくる所以は始て當寺に参詣する人の便利を得て其土産の空しからざるを主とし先づ有名の石華表(記號□)より入り復同所に出るを以て巡拜の終りとす又當寺は數門あり便宜いづれより参詣するも本書の記號(一より六十六まで)を圖面と照合すれば方位順次等明のを知るべし
- 一當寺の別院(勝鬘院一名愛染堂正善院一名庚申堂)は西南境外凡そ二三町許西と南とに在り故に本書に記載せず
- 一當寺の末寺(清光院地藏院眞光院施行院祐泉寺寶泉寺奥之庵)はいづれも當寺境外近傍に在り是亦本書に記載せり
- 一當寺境外近傍に散在せる神社佛閣名所舊跡等多く當寺に由緒ありしが維新の禁令出しより神社とは全く關係を絶つに至れり

因に云ふ當寺境内に在りし和光堂十五社と稱するものも亦此時廢止となる

一當寺は各宗祖師其他念佛を修するもの頗る多し就中傳教弘法見真圓光慈眼の諸大師及び良忍上人西行法師等皆其最とす

一當寺の寶物は常に拜觀するを得ず故に本編附録として其目を卷末に示す

明治二十八年二月

編者識

四天王寺獨案内 一名天王寺土産

南豊 堀 魯 一 編輯

荒陵山四天王寺は一に敬田院と號し大阪府攝津國東成郡天王寺村に在り又天王寺公園と稱す用明天皇二年聖德皇太子の御建立よして全郡玉造の岸上に在り一を推古天皇元年今の地に移し淳和天皇天長二年天台宗に定めらる左に堂宇其他順次に列記し參詣人方位の便に供ふ

一 石華表 高四間三尺三寸 横三間三尺

參詣する入口にして西大門の前面に在り石柱周圍一間五尺七寸中央に鑄銅堅五三尺筭形に匾額あり釋迦如來轉法輪所當極樂土東門中心の十六字を書す古代の文字にして或は聖德皇太子の眞蹟なりと云ひ或は小野道風又弘法大師と云ふ未だ孰れか其眞を考ふべからず

三 引導石

石華表の内に在り當寺四石の一にして聖德皇太子此石上に於て亡魂を善道に導き玉ひしに因り此名あり今尙近傍の人送葬のとき棺を石邊に置き寺僧の影向を願ふもの多し

三 納骨堂

石華表の東南に在り五智光如來を安置す叅詣人寺僧に施餓鬼を請ひ火葬の白骨を納む故に此名あり

四 茶所二箇所之一

納骨堂の東隣に在り叅詣人の休息所あり

五 引聲堂

一名法華堂と云ふ茶所の東隣に在り釋迦如來の像を安置す

六 布袋堂

引聲堂の東隅にあり石像の布袋尊を安置す婦人稚兒の乳養に乏しきもの信仰祈願する所あり

七 短聲堂

常行堂又念佛堂とも云ふ引聲堂の前西大門の外北側に在り彌陀如來の像を安置す春秋二季彼岸會の中日にあつて住吉郡平野郷町大念佛寺の僧侶導師とあり來つて融通念佛を修行す俗にこれを念佛踊と云ふ

八 西大門 桁行九間 梁行四間二尺

西方の大門なり武庫山出現の阿彌陀佛の畫像あり聖德皇太子御自筆なりと云ふ叅詣人門の中央にあつて焼香し門の兩側にあつて水印を轉す

九 義經鎧掛松

西大門を穿る左側に在り

十 經藏

義經鐵掛松の東側に在り傳大士普成普賢の像を安置す又一代藏經を藏ひ衆  
人其函を輪す故に輪藏とも云ふ

十一 五智光院

西大門内の南側に在り治承九年後白河法皇の御建立にして當時灌頂の道場なり  
維新以前は徳川將軍家代々位牌を納む

十二 西重門

西大門内廻廊乃中央に在り

十三 廻廊

桁行百五間四尺 梁行二間一尺四寸  
西重門は兩側より方形をなす五重塔金堂講堂龍井等を圍繞す

十四 金堂

當寺の本堂にして廻廊内の中央に在り本尊は如意輪觀世音菩薩其他四天王は像  
波羅門像六形舍利塔三千佛彫刻五重の小塔彌勒佛等を安置す寺僧毎日午前八時  
衆詣人をして佛舍利を拜戴せし

十五 轉法輪石

金堂の前に在り當寺四石の一にして釋迦如來轉法輪處の印石とす

十六 五重塔

基礎方三間五尺 高二十四間三尺  
金堂の南面に在り毎層雲形を彫り垂木は象頭を刻めり塔内は釋迦畫像四天王の  
木像等を安置す塔上の眺望は攝河泉及び和州紀州の諸山淡路島赤津海等を一眸  
の下に聚め頗る奇觀あり

十七 龍井

金堂の西側に在り屋形天井に龍畫あり水に映して動くが如し故に龍井と稱す

講堂 金堂の後に在り本尊は阿彌陀佛其他觀音勢至四天王の像三千佛の小像を安置す  
往時聖徳太子此堂におゐて法華勝鬘兩部の經典を講演せしむ故に此名あり

無常院 講堂の後邊廻廊の外蓮池の側に在り通俗引導鐘樓堂と云ふ鐘音黄色調みして  
天竺祇園精舎に無常院の鐘と相同じきを以て亦此名あり他の鐘樓の下に記す

鼓樓 蓮池の東南に在り樓内虚空藏菩薩を安置す朝夕鼓を撃ち寺務の始終を報告す  
石の舞臺 縦七間五尺 横五間五尺七寸  
石造にして蓮池の上は架す即ち舞樂場なり南方左右に樂屋あり伶人奏樂の所とす

蓮池

石の舞臺の下なり参詣人放生の所とす

六時堂 石の舞臺の北面に在り薬師如来を安置す往昔六時の勤業を爲す道場なり因て此  
名あり

龍神の松 上の池の東側に在り蓋し龍神乃遙拜所ならん

上の池 蓮池の西に在り其形ちに因りて通俗これを丸池と云ふ

佛足石

上の池の西側に在り石上釋迦の足根を像り彫る傍はらに古樟あり土人相傳へて聖德皇太子の植玉ひしものなりと云ふ

瓢潭池

上の池の西北に在り其名の如く瓢形あり明治二十六年三月に開鑿す因て新池とも云ふ周圍一面無數の櫻樹にして花時の夜景恰も雪中の觀あり府下生玉の夜櫻と共に天王寺の夜櫻と稱す

因北大門

一名乾門又新開門とも云ふ瓢池池と櫻園を隔て西北に在り

鏡池

北大門の東北に在り其形ちの似たるを以て此名あり

西大黒堂

鏡池の前面に在り三面の大黒天を安置す

四大師堂

大黒堂の北に在り一名普門院と云ふ元三大師の木像を安置す

三薬師堂

往昔推寺と云ふ大師堂の西に在り薬師如來を安置す大師堂と此堂は傳教大師の建立なり

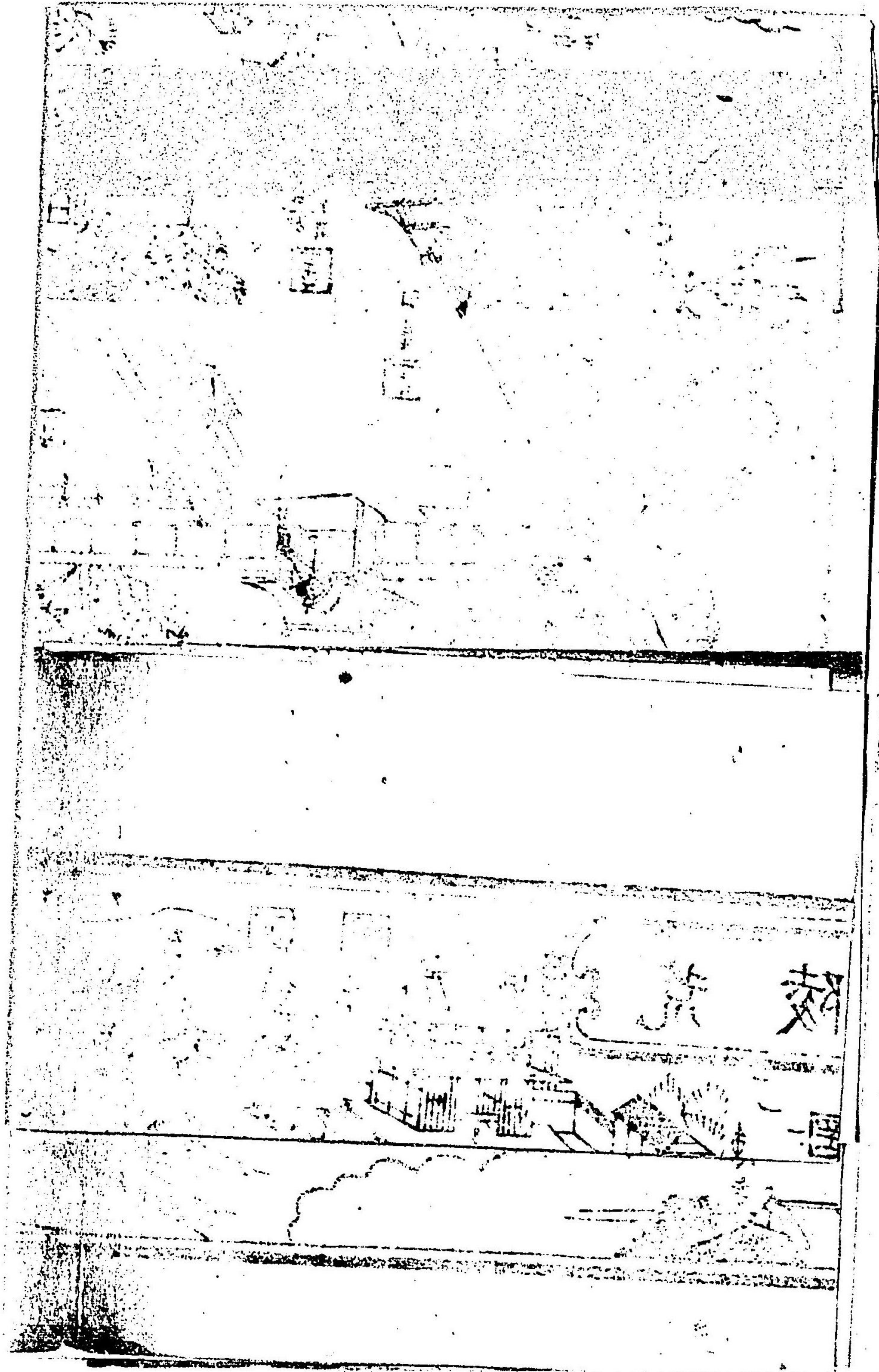
二願成就祠

薬師堂の西に在り

一僧坊門

願成就祠の西側當寺北端の四足門ありこれより再び願成就祠薬師堂大師堂大黒堂の前を過ぎ茶所に出るを便なりとす





茶所 二箇所之二

大黒堂の南方に在り参詣人の休息所なり

食堂

六時堂の後に在り文珠菩薩を安置と昔は當寺僧侶の食堂なり故に此名あり

行道梅

食堂の東西兩側環垣の中に在り

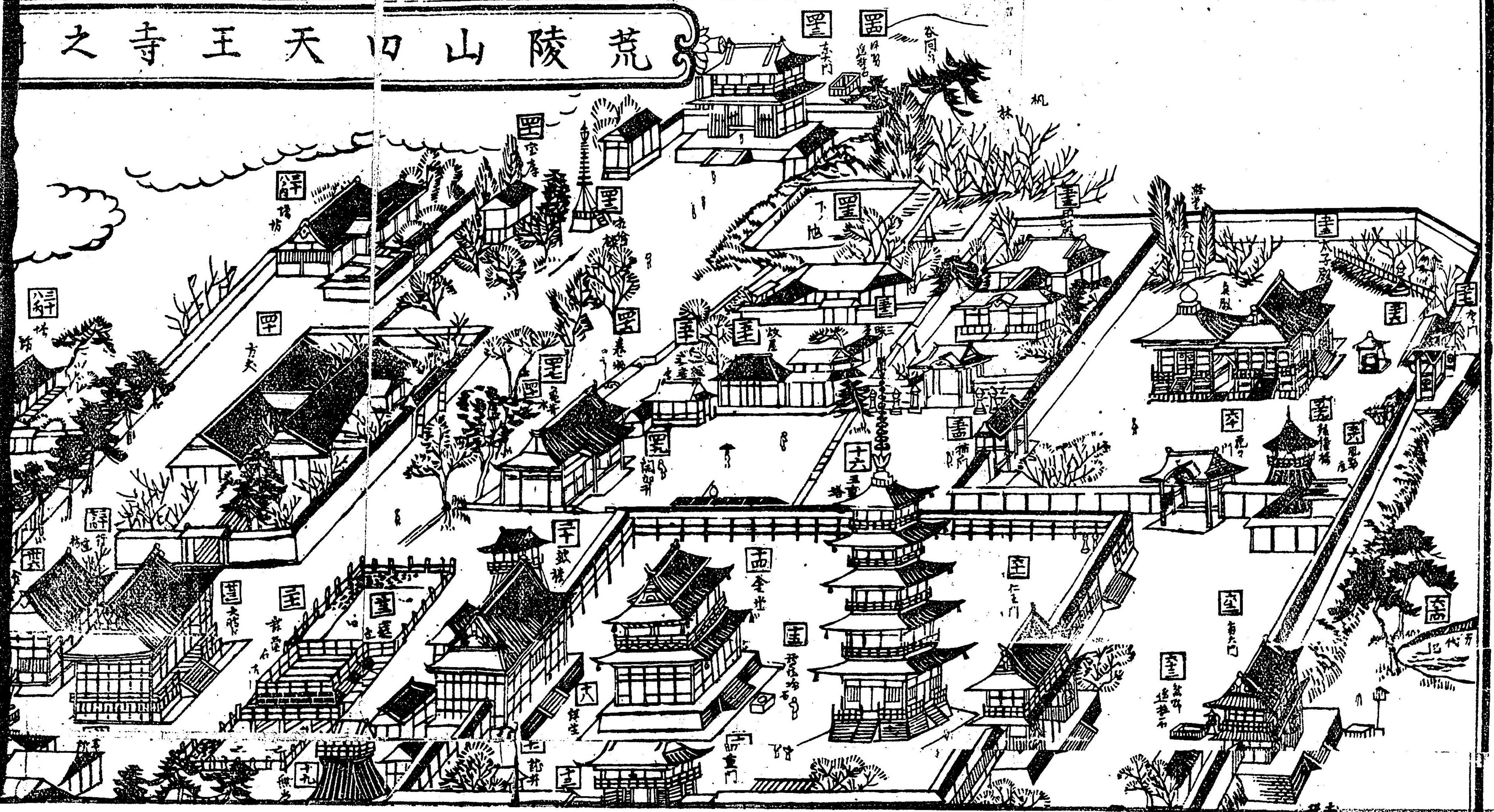
僧坊

食堂の西北より寶庫の北に至る各寺院あり

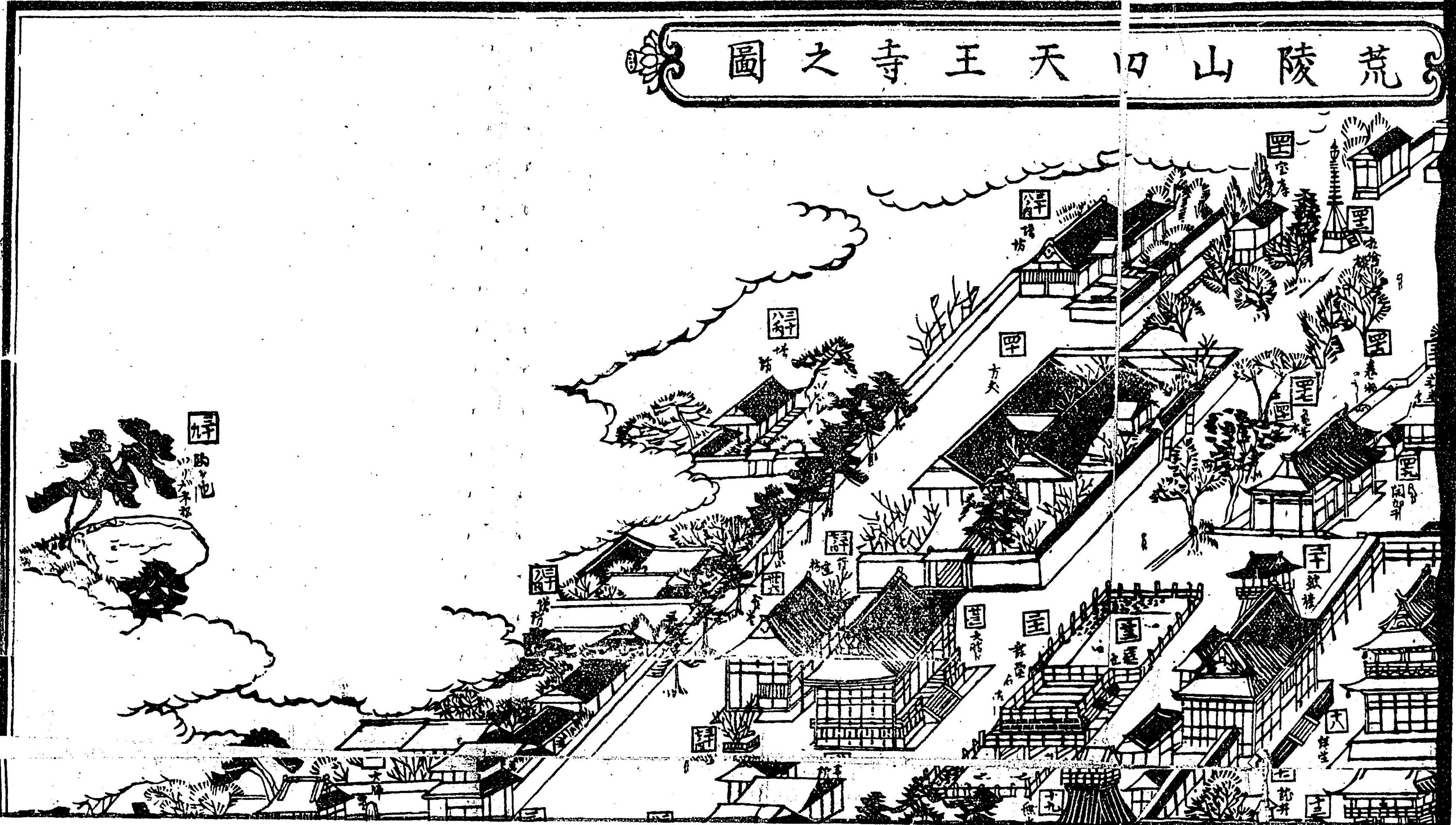
鐘松

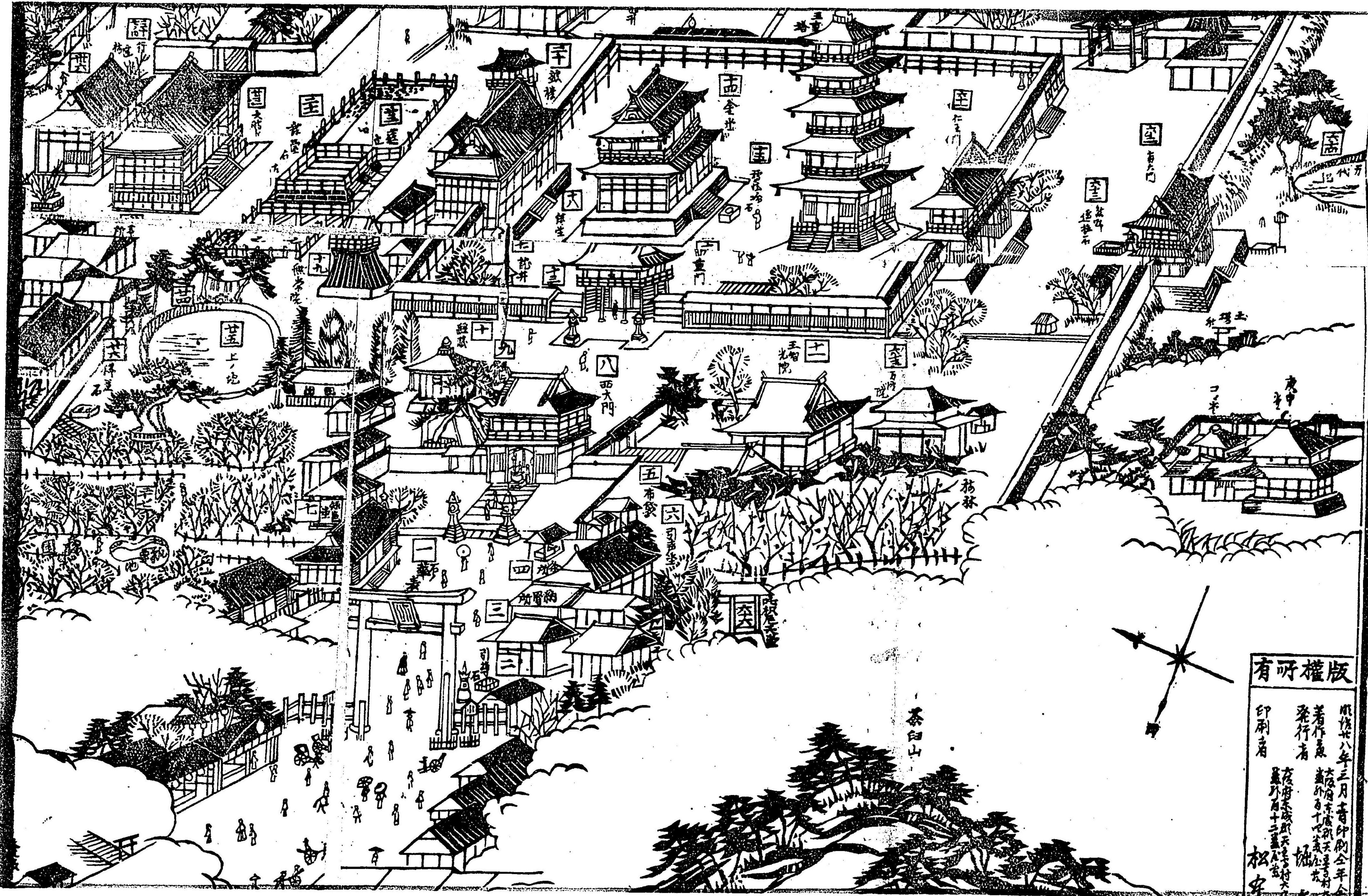
僧坊の北邊駒ヶ池の側に在り駒ヶ池の聖德皇太子の駒蹄を洗ひ玉ふに因りて名づく往昔は東平野町大字南平野八丁目に在り後に此地に移し僅に其名と

荒陵山天之王寺之



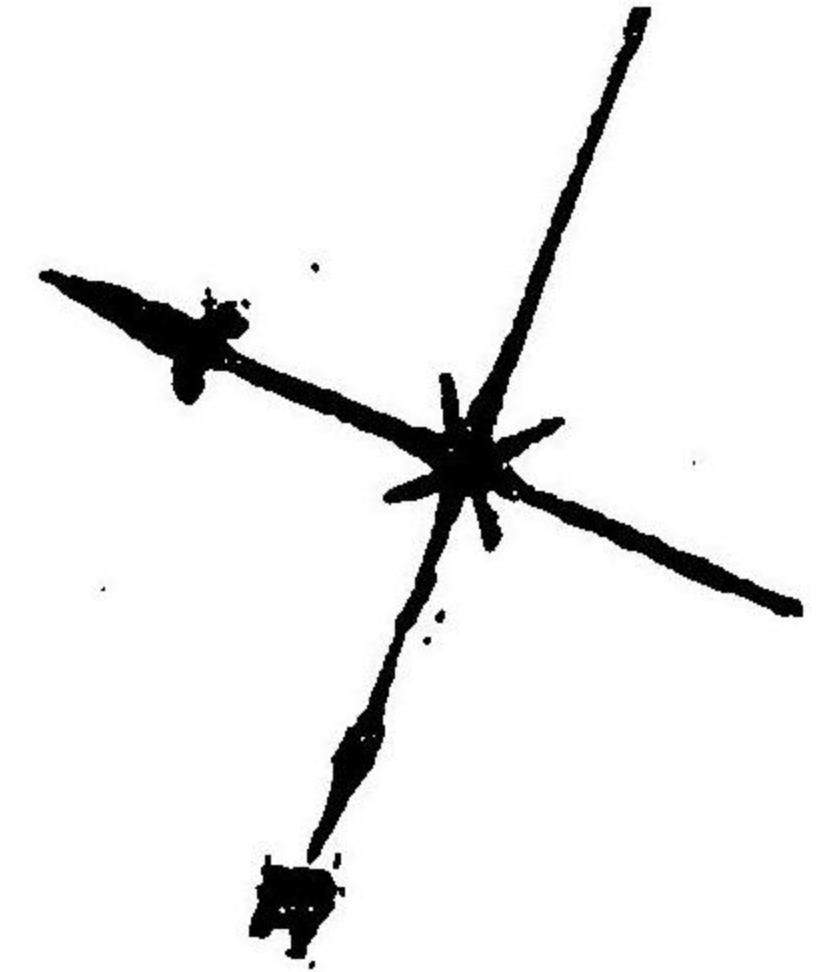
荒陵山天之王寺之圖

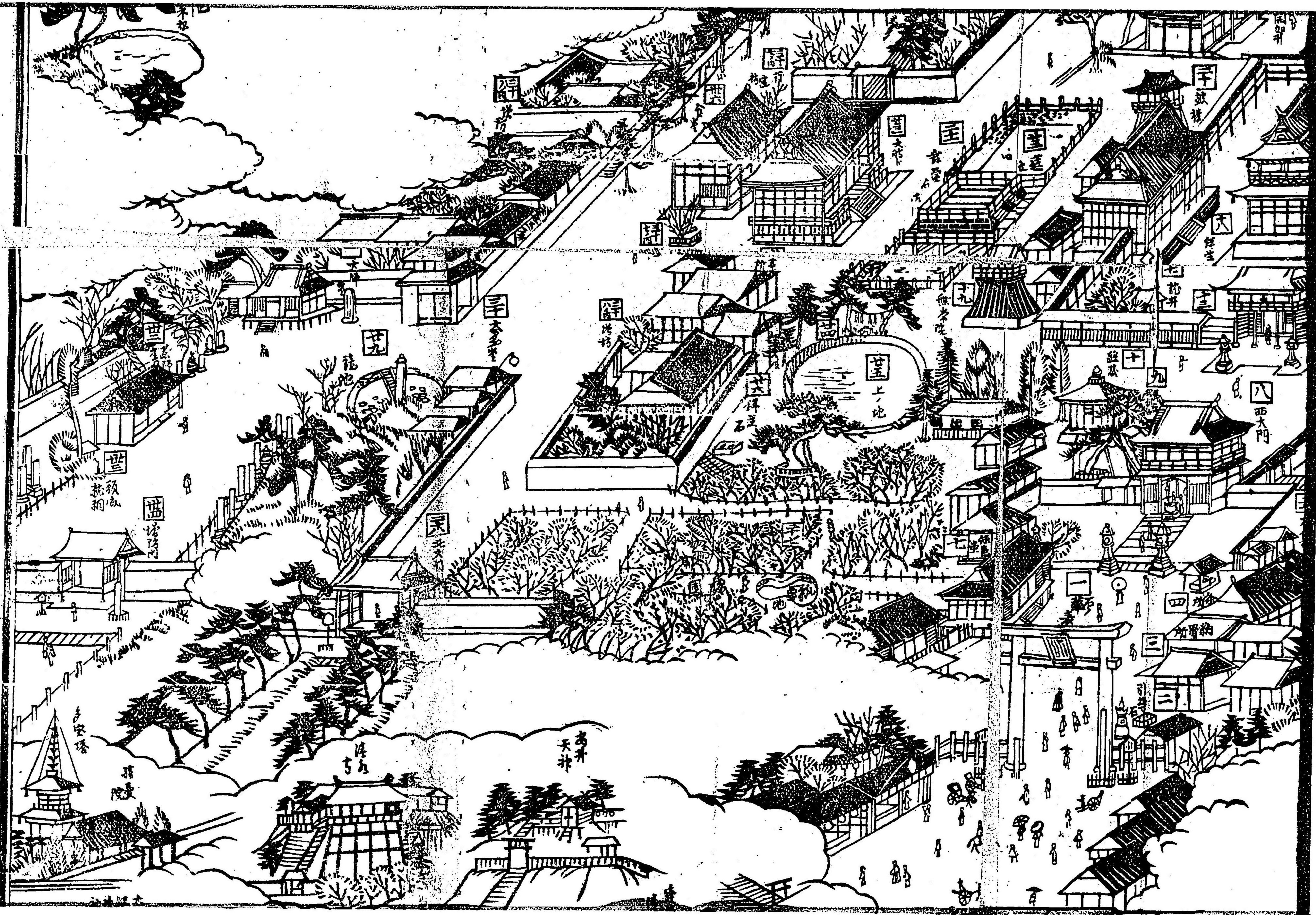




版有呀

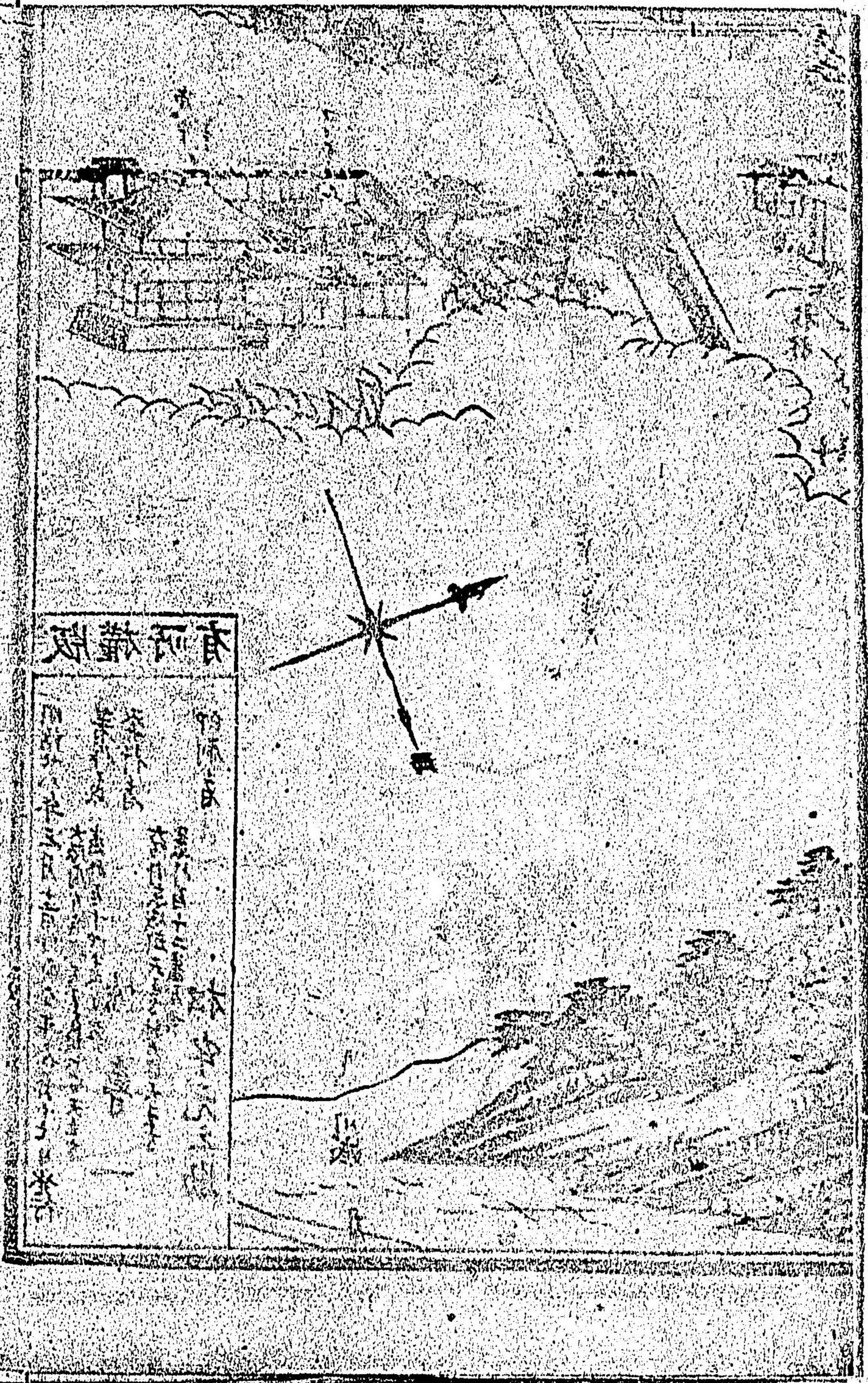
民國八年三月廿四日印刷  
 著者 蔡元培  
 發行所 北京大學  
 印刷所 北京大學  
 松林











形を存するのみ

方丈

僧坊の前寶庫の西に在り清所或は湯屋殿とも云ふ

寶庫

方丈の東に在り當寺の寶物を藏ひ其構造木を組成し釘を用ひず故に俗これを組成堂又釘無堂とも云ふ

相輪様

寶庫の南に在り九輪にして金色を帯ぶ

東大門

桁行六間三尺 梁行四間二尺 相輪様の側常寺東方の大門なり

伊勢遙拜石



東大門の外に在り當寺四石の一にして天照太神を遙拜する所とぞ

罍 下の池

東大門内の南方に在り土人傳ふ此池に月宿らす故に無月池とも云ふ周邊楓林古木頗る幽致あり

罍 卷物石

東大門の西小渠の注に架す其形ちけ似たるを以て此名あり蓋し古物にして所用年月等詳ならず

罍 龜井水

卷物石の西側に在り白石玉田の水と稱す金堂の下より流れ來り石鐺の龜口よつ噴出す昔時白河天皇の後宮上東門院當寺臨御の時水盤の形に因りて龜井の名を賜ふ此水に西大門の西凡ろ三丁邊阪の清水と東大門外谷間の水を併せ稱して

天王寺の三水と云ひ又本編記す所の伊勢遙拜石熊野遙拜石轉法輪石引瀧石と共に天王寺の三水四石とも稱す蓋し靈水靈石を評するなり

罍 影向井

龜井の上殿に在り往昔聖德皇太子御影を水に映し自ら楊枝を以て畫かせられしにより此名あり

罍 關伽井

龜南の南側に在り諸堂修法の時に用る靈水にして水底僅に三尺餘未だ曾て乾涸せしことめらすと云ふ關伽は梵語にて水のことあり

罍 經書堂

關伽井の南隣に在り叅詣人の需に應じ戒名を書す所なり其木牌を俗に經木と云ふこれを龜井水に投じて亡者の追善とす

㊦ 炊屋

經書堂の南に在り或の御供所と云ふ聖德皇太子の供米を炊ぐ故に此名あり當今千手觀音を安置す

㊦ 三昧院

炊屋の南に在り聖德皇太子御幼齡二歳の尊像を安置す古昔密教を修せし道場と云ふ

㊦ 用明殿

三昧院の南廂の門の外に在り用明天皇推古天皇崇峻天皇敏達天皇欽明天皇及間人皇后の御像を安置す維新以前は東照宮を祀る所あり

㊦ 猫の門

用明殿の南側に在り中央鉄網の内にある白木の猫は左甚五郎の彫刻と云ふ

㊦ 太子殿

猫の門の内在り一名聖靈院と云ふ聖德皇太子薨去の御遺像を安置す奥殿を寶殿と云ふ後花園天皇の勅造なりしが文久三年火災に罹り明治十一年信徒の再建する所に係る然れども殿宇舊規を存し頗る清淨華麗なり

㊦ 二股竹

一名南岳竹と云ふ太子殿の前に在り

㊦ 唐門

太子殿南面の正門なり

㊦ 鳳輦庫

唐門の西南隅に在り

㊦ 鯨鐘樓

鳳登庫の北側に在り鐘音を盤涉調と云ふ世俗無常院の鐘と共に引違門と稱し死者の爲めに冥福を祈り又其遺物を納むる所とす

虎の門

鯨鐘樓北側太子殿の西に在り正面其他門扉に虎を彫刻す故に此名あり

二王門

桁行十間二尺五寸  
奥行四間二尺

廻廊の南方中央に在り門の兩側に金剛夜叉二像あり高さ各一丈五尺

南大門

二王門の正南に在りこれを當寺の正門とす

熊野遙拜石

南大門の内に在り當寺四石の一にして熊野權現を遙拜する所とす

萬代の池

南大門の外にしてちりゝやたらゝの橋と共に舊跡を存するのみ  
萬燈院  
南大門の西隅に在り千手觀音高さ一を安置す又北側に紙衣を被ふる寶頭盧を安置す土人因て紙衣堂と云ふ  
吒枳尼天堂  
萬燈院の後邊梅園の西端に在り吒枳尼天を安置すこれより北折納骨堂と茶店の間を過ぎ再び石華表に出るを以て當寺案内の終りと知るべし  
以上歴拜する所の堂宇等天正元和二度の兵火に罹り豊臣徳川二氏の再興爾後安政の震災に鼓樓額廢し文久の災火に鯨鐘樓太子殿及び虎猫唐の三門悉皆焼失し近時信徒再建の爲め全く舊に復す而して元和の兵火を免れ今日に存在するものは獨り東大門なりと云ふ

四天王寺獨案内附録

寶物

聖德皇太子楊枝御影

絹本着色聖德皇太子御年四十九の時當寺影向井に御

影を映し自から楊枝を以て畫き玉ふ所の尊影なり

本願縁起

聖德皇太子の御筆にして當寺御創立の本願縁起なり御手印二十五箇

あり因て御手印縁起とも云ふ

本願縁起御寫

後醍醐天皇建武二年當寺御臨幸の時御宸寫にして御奥書に御

手印二箇あり

細字法華經

南岳大師の眞筆なり

七種御守

聖德皇太子御年一歳より七歳までの御所持なりと云ふ

丙毛槐林御劍

長さ二尺一寸五分にして金象眼丙毛槐林の銘あり聖德皇太子

守屋退治の時秦造川勝に賜ひし所のものなり

六日鐮矢

長さ二尺四寸三分にして守屋退治に用ゆるものなり

七星御劍

聖德皇太子の御佩劍にして劍に七星を現すと云ふ

緋御衣

聖德皇太子御着用のものなり

聖德皇太子尊像

御年十六歳と四十九歳の時御自作の尊像なり

將軍木多門天

聖德皇太子の御自作なりと云ふ

楊枝御影寫

絹地彩色春日法眼の筆なり

閻浮檀金彌陀

重量百四拾目

聖德皇太子の護持佛にして兩脇土觀音勢至木像

鳥佛師の作なり

扇面法華經

紙地に古書畫あり

京不見笛

聖德皇太子の御自作にして永享年間後花園院親覽の宣旨あり秋野法

印 携て京師に行んとす途中故なくして此笛二つに破れしかば法印大に驚き其由を奏聞し遂に教覽に供せずして空しく持ち歸る後函中より出し見るに裏の破損癒て舊に復す因て再び此由を奏上せしかばこれ太子生涯の秘藏にして他に遷すべからざるものとなし更に持ち來らしめす勅銘して京不見の笛なりとぞ

聖德皇太子繪傳 土佐將監光信の筆なり

聖德皇太子尊像 絹地彩色にして聖德皇太子御年三十五の御自畫なり

箱千手觀音像 弘法大師の作にして箱と像と同木あり

金剛如意輪觀音像 長七寸五分重量壹貫目あり

伊奈卿銅盤 圓形にして久安二年の號并に伊奈の記銘あり

古銅關帝像 長一尺一寸五分重量壹貫貳百目兩脇土關平周平源義經の守本尊なり義經曾て兄賴朝に嫌疑せられ京師より奥州に脱する時笈中に安置し負ひて以

て途中の難を免れしと云ふ

聖德皇太子御年二十五歲尊像 秦川勝作

文臺并硯 西門舊鳥居の古木を以て造る所なり

西門石衡門奏狀 忍性上人自筆 紫藤琵琶 右大將源賴朝寄附

樂太鼓 全上 漢代古鏡 東山殿寄附

天龍八部面 右大將源賴朝寄附 龍神面 弘法大師作

法華經 元三大師自筆 善導大師像 大師自作

法然上人像 上人自作 陵王納蘇利古面 濱主作

釋迦三尊 牧溪畫 花鳥繪 明戴文進筆

大般若經 一卷 傳教大師自筆 最上王經 一卷 光明皇后御筆

山王權現神像

慈鎮和尚筆

彌陀像

慈覺大師作

天台大師像

兆殿司筆

聖德皇太子御年十九歲尊像

百濟國善信作

以上寶物中重要な部分を記すのみ此外古物寄附品及び樂器等種類頗る多く且つ當寺の天正元和の騷亂兵燹火災の爲め紛失燒亡するもの亦尠からずと云ふ

四天王寺獨案内終

明治二十八年三月十二日印刷

明治二十八年三月十七日發行

定價金五錢

大分縣豐後國速見郡別府町番外百拾九番  
當時大阪府攝津國東成郡天王寺村大字  
天王寺番外百拾四番屋敷寄留

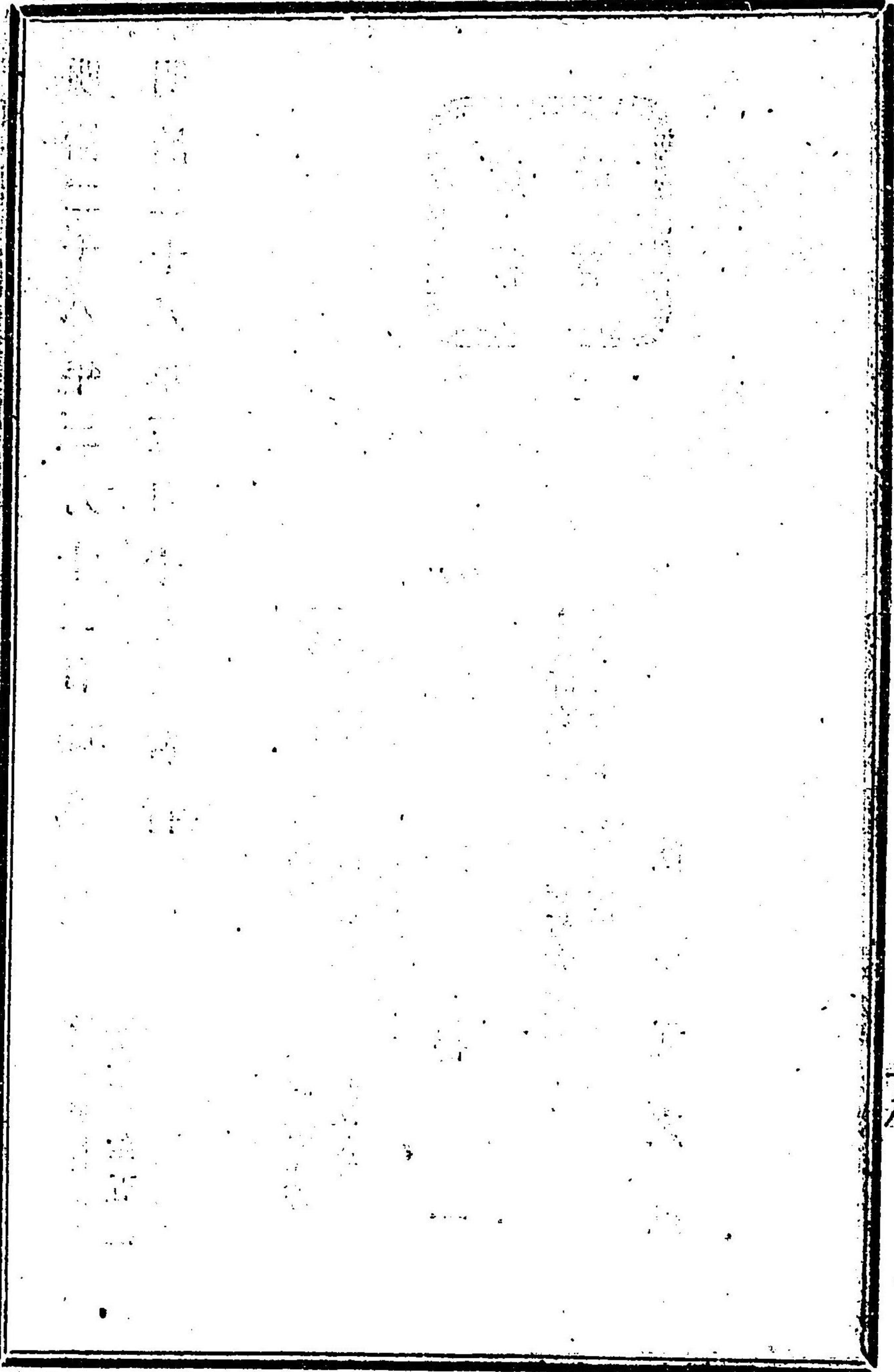
著作兼 發行者 堀 魯 一

大阪府東成郡天王寺村大字天王寺  
番外百拾貳番屋敷平民

印刷者 松 本 元 之 助



2D-87



廿八